

第5回（2021年1月開講）新・里山講座アルバム

2021年12月10日

第5回新・里山講座は受講生11名の皆さまと2021年1月10日から5月19日まで全13回連続で実施予定でした。ところが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、3月以降の日程を組みなおし延期しました。実施済の講座アルバムと受講生の皆さまの感想を取りまとめました。

第1回1月10日（日）当初リアル会場にて実施予定も新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、オンラインに変更して10時より開講式と座学「保全協会の目指す里山とは」、午後より座学「森林のしくみ」行いました。

1. 開講式

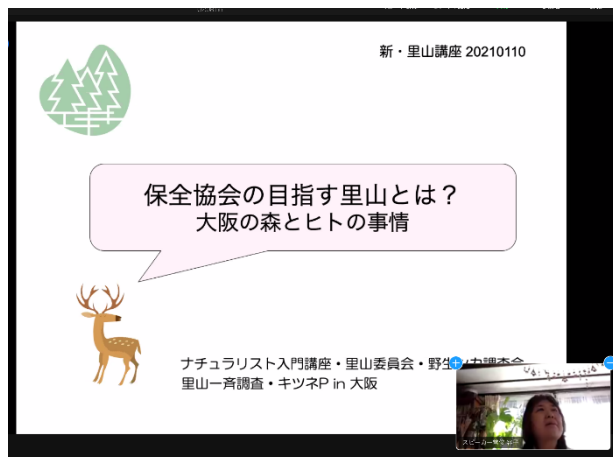
写真は、主催者を代表しご挨拶された金谷薫氏、（（公社）大阪自然環境保全協会 副会長）



<受講生の皆さまのふりかえり>

- リアルでお会いできなかったのは残念でしたが、自己紹介の内容が予めカスタマイズされていたことで受講生の方の興味関心がわかり良かったです。
- 受講生やスタッフの方みなさんの背景を知ることができ、良かったです。早くお会いしたいと思いました。
- スタッフ含め、様々なスキルをお持ちの方がおられる事が分かり、直接お会いしてお話するのが、とても楽しみです。

——座学——



座学1 保全協会の目指す里山とは（講師：常俊容子氏）

- 里山保全の活動について、ご自分の経験をもとにわかりやすく説明していただき、里山の意義、保全活動の重要性、公的なものではなく市民活動により成り立っていることがよくわかりました。
- 大変興味深い話をありがとうございました。今まで学習してきた「里山」も正解ではないのですね。地域ごとの生態系、文化、森林所有者の思いなども考えながら決める必要があるとは、里山管理とは奥深いです。
- 里山、自然と言っても明確な定義やゴールがあるわけではなく、管理維持するのも単純な話ではないなと感じました。地域の事情に応じて、目指す姿を能動的に考えて方針を立てることが求められているように思いました。

座学2. 森林のしくみ（講師：藤原 宜夫氏）

- 藤原先生のやさしく、分かりやすい語り口が印象的でした。来年度大阪公立大学の講座を受けたいくなりました？
- 森林について体系的に学んだことがありませんでしたが、とても分かりやすかったです。里山のあるべき姿を考えるうえで、森林や里山がどのようにできるか、何もしなければどのようになるかを知ることが重要だと思いました。
- 森林の変位等森林のしくみについてよく理解できました。里山については自然を保護するために自然に任せるというのではなく人手による手入れが必要であるということについては興味深かったです。

第2回1月31日（日）当初リアル会場にて日本赤十字社による「応急手当短期講習」実施予定も新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け中止、「里山保全活動の事故事例と安全対策」、紫金山みどりの会で「下草刈り」時に行う、座学「紫金山公園の植生」、「市民運動が公園計画を作った」について先行しオンラインに変更して10時より行いました。

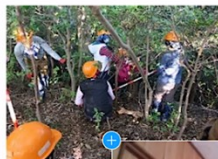
1. 座学1. 里山保全活動の事故事例と安全対策（講師：大塚陽一）



里山保全活動の現場



森林ボランティア手帳より転載



<受講生の皆さまのふりかえり>

- 思ったよりも事故が多いと感じました。油断は禁物、体調管理も含め万全で望めるよう気をつけたいと思います。
- 保全活動の現場は一見そんなに危険は大きくないと考えていたが、甘く考えずに何が起きるかわからないということを常に念頭において作業等をしていきたいと思います。
- フィールドで活動する際には危険が近くにあるということを再認識することができた。作業前に必ず危険個所の確認を行いたい。

2. 座学2 紫金山みどりの会の紹介

① 紫金山公園の植生 (講師：武田 義明氏)



カメラ
の切り換え



Bluetooth



紫金山公園の植生

紫金山みどりの会
会長 武田 義明

大森自然環境保全協会 新・里山講座 2021年7月31日



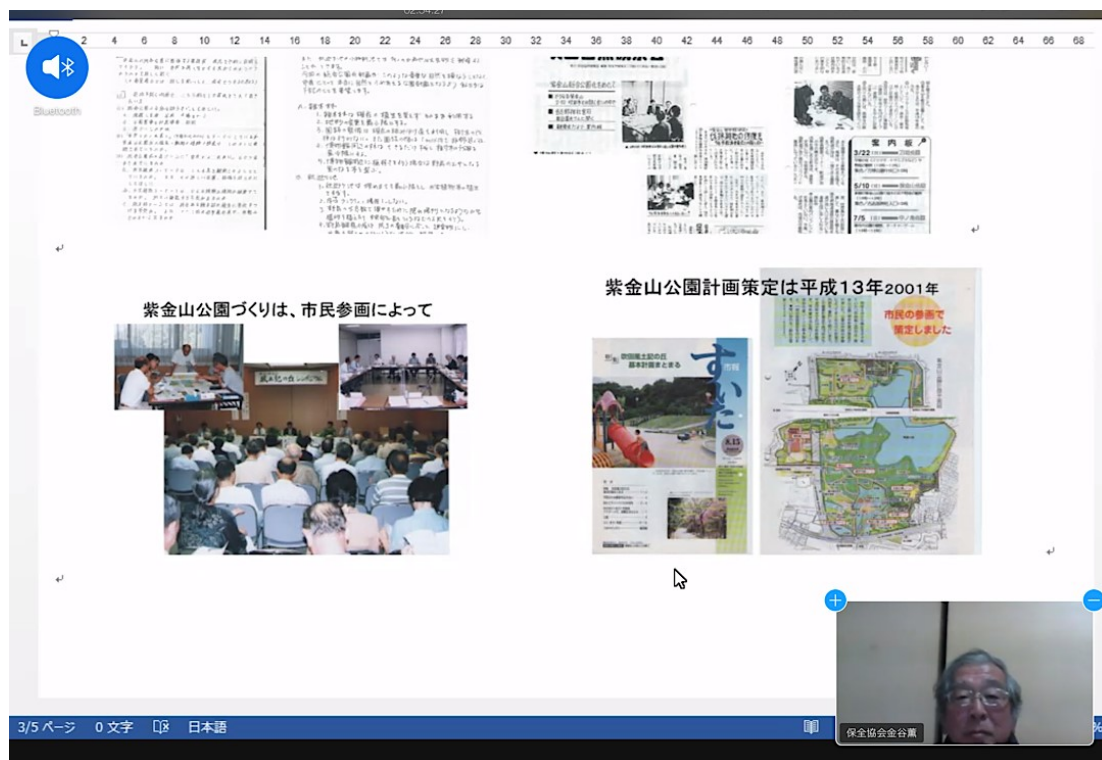


武田 義明

<受講生の皆さまのふりかえり>

- 紫金山公園はよく行きますので、60年前からの変遷のお話は大変興味深かったです。また、いつも美しいコバノミツバツツジもみどりの会のみなさんの尽力あってこそ。今後もお手伝いしていきたいです。
- 公園の植生がどうなっているかを紹介してもらえて、よくわかりました。実際に現場での活動時にそれを確かめるのが楽しみです。
- 常緑樹が多い環境と落葉樹が多い環境では林内の植物相、環境が変化することが興味深かった。

② 市民運動が公園計画を作った（講師：金谷 薫氏）



<受講生の皆さまのふりかえり>

- 市民の声が行政を変えるお話に感動しました。最近はこの話を聞く場面が減ってきていますので、もっとさまざまな場所でお話いただきたいです。「保全協会はチャレンジの後押しをします」は心強い。受講生には嬉しい言葉です。
- 私が住んでいる近くの場所の自然がどうやって守られたか守られているのかを学ぶことができて興味深かった。
- 休日は近場の公園を散歩しに行くことが多いですが、私が子供のころよりも植栽エリア柵や花壇などが整備されています。市民の方からの要望で整備されるようになったかもしれないと思うと一層大切に使用したいと思います。

第3回2月16日（火）18時30分よりオンラインにて座学「人の暮らしと里山」を行いました。

1. 座学: 人の暮らしと里山（講師：佐久間 大輔氏）



<受講生の皆さまのふりかえり>

- データを用いた昔の里山の検証は大変面白かったです。今私の見ている生駒、飯盛はハゲ山だったと思うと、また、それが自然と共生していたとされる世界だと思うと、また自然保護に対する考えも変わってきます。
- 里山のイメージがガラッと変わりました。樹々が鬱蒼と生い茂るところをイメージしていたのですが、今日のお話を聞いて、わざわざ草地を作っていることも知り衝撃を受けました。
- 里山が大都市部の生活を支えるために拡大していったことに驚きました。当時の人にとっては儲けるためにやったことかもしれませんが、自然の恵みを受けていたから「自然を大切にする」という共通概念があるのだと思いました。

第4回目は3月2日（火）18時30分より座学「植生毎木調査の必要性と方法」を、オンラインにて行いました。

1. 座学 植生・毎木調査の必要性と方法（講師：土生 陽子氏）



植生・毎木調査の必要性と方法

<受講生の皆さまのふりかえり>

- 今までも里山管理のメインの方と、植物観察メインの方の意見が異なり言い合いになるという事を、目の当たりにしてきました。きちんと調査をして数値化、図化する事で、大きな声に流されないというのは、大変納得がいきました
- 今どうなっているのか、目標に対してどの程度ギャップがあるのかを数値にして明確にするのがとても重要だと理解しました。自分たちでもイメージを共有できるうえ、第3者に理解してもらうためにも、調査が必要だと思いました。
- 植生毎木調査により森林の現状を把握し、それを分析して管理計画を立て維持管理していくことの必要性がよくわかりました。植生調査は慣れや植物の知識がかなり必要な印象を受けました。

第5回は3月6日（土）五月山フィールド見学、毎木調査実習と図面化を池田市五月山、緑のセンターにて行いました。

1. 五月山フィールド見学（講師：中川 勝弘氏）

講師の中川勝弘氏の引率と説明により、緑のセンターからすがたに広場を経由し炭焼き小屋コースを登る。



<受講生の皆さまのふりかえり>

- 里山を意識して初めて森林に入りました。森林を管理していくことの難しさが分かりました。災害やシカにより森林の被害が深刻であることもよく分かりました。
- 初めて訪れた、広く歩きやすく整備されていて登ると伊丹～大阪の景色がきれいに見渡せて気分が良かった。別の季節にも来てみたい。
- アベマキ、コナラの群集であった。低木としてモチツツジが多く生息していた、モチツツジは新芽がネチャネチャしていた。近年オオムラサキは減少しているそうだ、食草であるエノキは多いのに何故だろうか？

2. 毎木調査実習（講師：土生陽子氏、中川 勝弘氏）

習地は五月平高原コースの中腹、到着後、講師の土生陽子氏より実習地の説明・調査要領のデモ、KYKを行った後、2班に分かれて調査を行った。



<受講生の皆さまのふりかえり>

○慣れない最初の方は測り方に手間取ったが、だんだん慣れてきてスムーズに測ることが出来た。

生枝下高はどの枝にすれば良いのか、まだあやふやなところがあるので、しっかり調べてみようと思った。

○最初は調査の要領が分かりにくくて時間がかかりましたが、やっていくうちに要領よく出来るようになりました。結構狭いエリアに人が多くなったので作業には注意が必要でした。

○5m×5mという一目で見渡せる範囲でも1本1本記録するのは大変でした。

<調査結果、左：毎木調査票①、右：毎木調査票②の例>

【 毎木調査票① 】

【調査地データ】	
NO.	1
年月日	2021年3月6日(土)
調査地	大分県三好市 五月山
群落	アカマツ
斜面方位	西南西
斜面傾斜	15°
調査面積	5m×5m
地形	山頂・麓根・斜面(上・中・下)・平地・谷
風当たり	強・(中)・弱
日当たり	陽・(中陰)・陰
土湿	乾・(中)・湿・多湿
調査者	

【 毎木調査票② 】

NO.	種 名	樹高	生枝下高	幹高周径	樹冠				位置		備 考
					①上	②中	③下	④上	X方向	Y方向	
1	コナラ	7.5	3.3	0.24	1.3	1.2	1.2	0.6	1.0	0	
2	カスミソウ	3.8	1.1	0.09	1.8	1.2	1.6	0.4	1.2	0.6	株高5(5)
3	アザミ	7.2	2.2	0.32	1.9	2.0	1.6	0.7	0.9	1.8	株高4(2)
4	アザミ	5.7	2.2	0.19	1.4	0.6	1.4	1.2	1.6	2.0	
5	カスミソウ	1.6	0.8	0.04	0.9	0.2	0.6	0.4	0.7	4.0	株高5(2)
6	木立	5.0									
7	アザミ	5.8	2.3	0.13	1.0	0.6	0.7	0.9	0.3	5.0	
8	アザミ	1.9	1.1	0.04	0.4	0.2	0.3	0.6	1.4	4.6	
9	モリツツジ	1.6	0.6	0.04	0.9	0.1	0.6	0.4	1.7	4.6	
10	アザミ	5.7	2.4	0.15	1.1	0.4	0.4	1.1	1.8	5.0	株高5(2)
11	モリツツジ	2.0	1.0	0.015	1.0	0.4	0.5	0.6	2.0	3.8	
12	モリツツジ	2.0	1.1	0.05	1.4	0.0	0.6	1.2	2.5	3.6	
13	モリツツジ	1.6	0.6	0.015	1.0	0.0	0.3	0.0	2.0	3.4	
14	アザミ	6.5	1.9	0.22	1.8	0.3	1.3	0.4	2.5	3.4	

3. 毎木調査結果の図面化（講師：土生陽子氏、中川 勝弘氏）

緑のセンターに戻り、1階フロアにて、スタッフより調査結果データより図面化の要領を説明、平面図班と断面図班に分かれて図面化した。



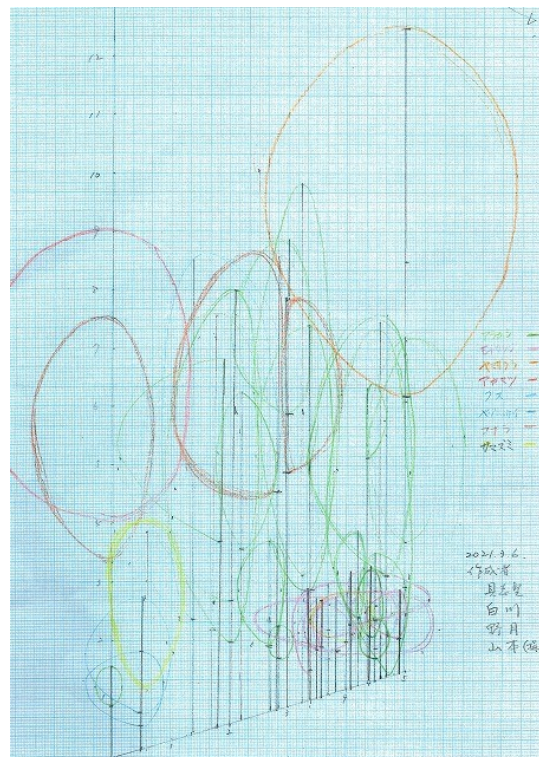
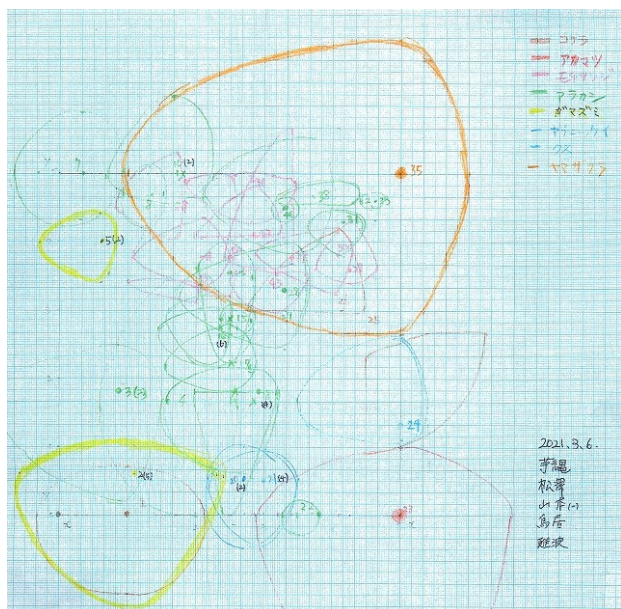
<受講生の皆さまのふりかえり>

○図面化することで可視化されて、分かり易くなるのが分かりました。

○目にしてみると位置関係や樹種の偏りが一目で分かった。樹種の同定と同じくその樹がどんな性質なのか（落葉？実・花は？すぐ増えるのか弱いのか？）分からないと問題点も遷移も想像できない。

○現地ではなんとなく密集しているくらいにしか思いませんでした、色分けをすることで、どこに何があるか一目で分かるようになり、毎木調査の有効性が分かりました。

<調査結果に基づき図面化、左：平面図、右：断面図>



第6回3月13日(土) 森づくり企画、五月山グリーンエコーの活動、森づくり実習を池田市五月山、緑のセンターにて行いました。

1. 森づくり企画

緑のセンター1階にて2班に分かれて、毎木調査結果を整理し、森づくりを話し合った。

その後、全体でどのような森づくりをするのかをまとめて、残す樹、間伐する樹を決めた。



<受講生の皆さまのふりかえり>

○花が見たい、生きものが見たい、炭を作りたい等、自分だけでは思いつかないアイデアがあり、意見を出し合ったうえで里山をどうしていきたいかを決めていくのが大事だと感じた。

○毎木調査で調査した内容を図面化し、どのような森にしていくかを考えることは、楽しいと思いました。実際に手を入れてみてどうなるのか楽しみです。

○活発な意見交換がなされて参考になった。同じ方向性にまとまって良かったと思います。

2. 五月山グリーンエコーの活動 (講師：中川 勝弘氏)

五月山グリーンエコーの約30年にわたる活動について、代表の中川勝弘氏より講義を受けた

<受講生の皆さまのふりかえり>

○活動するにあたり継続するためには「安全」が一番大切である。そのためには道具を正しく使いメンテナンスする、KYK活動を事前に行う必要がある。楽しく活動するために注意しようと思いました。

○中川さんの熱い想いが伝わって来た。一回限りのお客さん気分の参加より、継続して活動続けることに意味があるのだと思った。



○市民のボランティアである以上出来ることには限りがある。その中で力を入れるべきこと、あきらめるポイント、継続するために必要なことを教えて頂いた。

3. 森づくり実習（講師：中川 勝弘氏、スタッフ）

この講座で初めて刃物のノコギリを使うため使い方を練習した後に森づくり実習を行った。

<写真1段目、左より、実習前の打ち合わせ。ノコギリ練習。間伐作業。>

2段目、左より、間伐作業。間伐後の実習地。仕上がりを受講生の皆さままで確認。



<受講生の皆さまのふりかえり>

○平面図や断面図で何を切るか決めていれば効率よく予定通り切ることが出来た。

○アラカシを数十本切るだけで、すごく明るくなりました。樹の伐採は初めてでしたが、結構ハードな作業でした。モチツツジの花がきれいに咲くのが楽しみです。

○先週の毎木調査を受けて企画した森づくりが目に見える形で完了させることが出来たのは、貴重な体験でした。本来であれば、今後継続してモニタリングしていることが重要なんだろうが・・・

第7回3月20日（土）は、植樹、歌垣 SATOYAMA 楽舎の活動を歌垣 SATOYAMA 楽舎の受け入れにて行いました。

1. 歌垣 SATOYAMA 楽舎のフィールド見学、活動

歌垣 SATOYAMA 楽舎の活動フィールドでオリエンテーション、その後、植樹のデモを歌垣のスタッフにより行った。活動の紹介は、午後の部にて湯浅淳子代表より説明があった。

<写真左より、歌垣銀寄栗の森看板。オリエンテーション。湯浅淳子代表のご挨拶。>



講生の皆さまのふりかえり>

- 素敵な拠点でした。まずそこに根を下ろし、人の輪を作り、里山保全をされていることに心が揺さぶられました。
- 理想の里山といった風情の歌垣に来られて大満足です。
- 湯浅様の熱意と行動力に感服致しました。シカ対策が大変であることは実感いたしました。
- 250年前の古民家が実用出来ていることにびっくりです

2. クリの植樹 (講師: 歌垣 SATOYAMA 楽舎スタッフの皆さま)

KYKを行った後に、5班に分かれ正林寺前の約400㎡の緑地に15本の植樹を行った
<写真左より、KYK、その後の植樹風景>



<受講生の皆さまのふりかえり>

- 正林寺の土地にクリ (幼木) 15本植樹、一つの班が3本、シバグリ等に銀寄栗を接木したものでした。接木がなぜ強いのか分からないが、野菜でも接木したものは強い。
- 放置した畑に竹が侵入するとどうなるかを実感しました。土は良いのに根ばかりで再生するのにとても労力が必要だと思いました。
- ササの根が地下で張めぐらされ、50cm程度の堀り起こしでも難儀でした。植樹体験は今までしたことがなかったので大変有意義でした。

3. 講義: アリが育てるチョウの話 (講師: 大谷郁生氏)

銀寄栗の森の保全活動で復活したキマダラルリツバメの研究報告について、講義をうけた。

<左より、報告風景。大谷郁生氏 (大阪府立大学大学院)。上田昇平氏 (大阪府立大学准教授) >



<受講生の皆さまのふりかえり>

- キマダラルリツバメやハリブトシリアゲアリの存在を初めて知りました。研究発表の内容が少し難しくも感じましたが、知るきっかけになって良かったです。

○アリとチョウが共生しているのにまず驚きました。絶滅危惧種ということで、詳しい生態を研究されており、その成果を活かせることを期待しています。

2段目、実習風景。満開のコバノミツバツツジ、基地に戻り鎌の手入れを行う。

4月30日 危険予知活動表		
作業内容	下草刈り	
危険点	中継で停電発生、金切刃が鋭い	
対策	足元が暗く、サカサ根が邪魔で倒れる可能性がある。 朝や昼、安全な状況、足元が暗くなく、 片側から刈り取る。 刈り取った草は、中継付近、金切刃が鋭いので、 周囲の危険なところ、注意喚起、周囲の人に注意を促す。 休憩時間には、刈り取った草を、中継付近、足元が暗くなく、 片側から刈り取る。	
対策評価	2 評価	対策評価 7 評価



<受講生の皆さまのふりかえり>

○畑のような平らな場所ではなく、足場が悪く残したい植物が混在しているような里山では、このような作業はとにかく人手が必要だと実感した。個人的には夢中になって刈った後の綺麗になった景色を見て良かった。

○鎌で草を刈るのは初めてでした。慣れてくるとサクサク出来るようになりましたが、足を切らないようにして注意することが忘れがちになり、反省。

○繁っていたササを刈ることで見違えるように綺麗になり気持ち良かったです。知らず知らずのうちに一生懸命になり作業をしてしまいがちなので、オーバーワークにならないよう自分のペースを守りながら作業をすることが長続きするコツだと思いました。

<昼食後、植物の名前を覚えたいという方々の参考のために資料に基づき、現物の観察を行った。写真左より、大越悦子さんの説明による観察風景>



2. ロープワーク (講師：岡本利典氏)

岡本利典氏の指導により、里山保全作業でよく使われる、8の字結び、巻き結び、もやい結び、避難用ロープ、ロープのしまい方などについて実習する。

<写真1段目左より、ロープワーク実習風景。2段目、中・右は午前中に下草刈りしたササを巻き結びして捨場に運ぶ>



<受講生の皆さまのふりかえり>

○今までできなかったことがなかったがロープワークが出来れば、里山の作業を効率的に出来ると感じた。

もやい結び、巻き結び、8の字結びなどは生活でも活かせるので、日常使って忘れないようにしたい。

○ロープワークは難しかった。帰ってから復習しないと忘れてしまいそうです。

○ロープの結びを覚えるのは難しいが、覚えるとすごく役に立つので忘れないようにした

3. 紫金山公園フィールド見学 (講師：岡本利典氏、清水由夫氏)

金山みどりの会スタッフの岡本利典氏と清水由夫氏の引率・ご説明によりフィールド見学を行った。

<写真左より、清水由夫氏、見学風景。>



<受講生の皆さまのふりかえり>

○細かく案内して頂き植物のことから歴史のことまでとても興味深かったです。

管理されている方々の人となりが優しくそれがフィールドにも顕れていると感じました。

○管理されている森林とされていない森林の明るさの違いが印象的でした。

○明るく綺麗な森に変わっていました。病気や枯れている樹も目立ち、これからどうなるのか興味あります。コバノミツバツツジの最盛期に來られてラッキーでした。

新型コロナウイルス感染拡大防止のための緊急事態宣言発出により、予定していた講座の実習分を延期、座学分のみオンラインにて実施しました

第9回6月20日(日)、13時よりオンラインにて「里山保全と生物多様性」について講義を受けた。

1. 座学 里山保全と生物多様性 (講師：田淵 武夫氏)



田淵武夫さんが、大阪みどりの功労賞を受賞

大阪府の「みどりの功労者」に、本会員(元理事)の田淵武夫氏(富田林の自然を守る会会長)が選ばれました(2021年5月14日報道発表)。この賞は大阪府が毎年「大阪の自然環境の保全等に顕著な功績のあった個人または団体」を表彰しているものですが、田淵様の長年の活動に敬意を表するとともに、ともに喜びたいと思います。

<受講生の皆さまのふりかえり>

○植生が、裸地の状態から極相林となるまでのにおいて、里山は「人間の干渉によって遷移が止まっている状態の林」という認識がとても興味深かったです。

○田淵様の長年の経験に裏打ちされたお話を、とても興味深くお聞かせいただきました。優れたリーダーの下で、将来のあるべき姿を念頭に置いて活動していくことの大切さを強く感じました。

○政策提言もされながら、きちんとした目標を掲げ、計画を立て、体系的に取り組んでおられることが、とてもよくわかりました。また、常にアップデートしておられ、受け入れも柔軟で、すごいことだと感動しております。

新型コロナウイルス感染拡大防止のための緊急事態宣言発出により、予定していた講座の実習分を延期、解除になった10月1日以降の日程を次の通り予定しました(2021年9月30日現在)。

No.	開催日時 <実習時の雨天予備日>	場所	分類	内容	講師
確定	10月3日(日)9時30分 <10月9日(土)>	太子町 葉室	実習	葉室里山フィールド見学 「ナツハゼジャムづくり体験」	小路 公之 (太子町葉室里山クラブ代表)、他
確定	10月30日(土)9時30分 <10月31日(日)>	富田林市 奥の谷	実習	奥の谷フィールド見学 「人工林間伐」	田淵 武夫 (富田林の自然を守る会代表)、他
確定	11月7日(日)9時30分 <11月14日(日)>	豊能町 高代寺山	実習	高代寺山フィールド見学 「竹林間伐」	伊藤 温夫 (妙見里山倶楽部会長)、他
確定	11月21日(日) <11月23日(祝火)>	富田林市 奥の谷	実習	「竹炭焼き体験」 「修了後の活動など」 「修了式」	米田 彰一 (富田林の自然を守る会炭焼班)、他 事務局

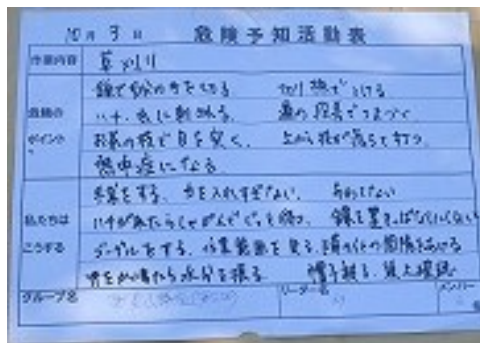
第10回10月3日(日)、草刈り、ナツハゼジャムづくり・葉室里山フィールド見学を太子町葉室里山クラブの会様の受け入れにて、行いました。

1. 茶畑の下草刈り実習(講師:中條月代氏)

太子町葉室里山クラブの会代表の小路公之さまよりのご挨拶の後、フィールド林道添いのチャの木の草刈りを実習を行った。このチャの木は翌年5月にお茶摘み体験をする木です。

半年ぶりの草刈り作業、KYKをしっかりと行った後、ソーシャルディスタンスを取り作業にかかりました。

<左>KYKボード <中>下草刈り作業 <右>チャの花も開花していた。



<受講生の皆さまのふりかえり>

○鎌を研いであさっていたので草が刈り易かったです。ありがとうございました。

○手入れの行き届いた鎌は切れ味が良く危なくないことが実感出来ました。

○KYKでの注意事項に気をつけながら作業した。

下草刈りして綺麗になったのを見るのは気持ち良かった。

2. ナツハゼ採り、ジャムづくり(講師:中條月代氏)

中條さんより、ナツハゼの木と実の説明を受け黒く熟しているのを採取する旨の指導があり、袋に500gを目標に採取しました。

<左>ノツハゼの実 <中>採取 <右>袋に採取出来た実。



<受講生の皆さまのふりかえり>

○ナツハゼの実が熟している段階によって、色が赤から黒に変わっていった、とてもきれいでした。

山のどこにナツハゼの木があるのか探すだけでもワクワク感を味わえました。

○初めてナツハゼを見た、採るのは楽しく夢中になる、採ったナツハゼで早速ジャムを作りたいと思った。

○初めてナツハゼを知りました。山の恵みを頂きます。

ナツハゼ採取後、観察小屋に戻りジャムづくりの説明を受け、コロナ対策のため見学しました。

最初は、採取したナツハゼの実の選別です、選別後、ナツハゼの実を砂糖と鍋に入れ加熱、30分ほどでジャムになります。

<左>ジャムつくりの説明を受ける <中>用意された調理台 <右>砂糖とともに加熱。



3. 葉室里山クラブのフィールド見学・活動について

中條さんより太子町葉室里山クラブのフィールド見学を案内して頂きました。

<左>観察小屋内部 <中>観察小屋に面した池 <右>池に乗り入れるドラム缶4本で作られたイカダ



<左>ツリーハウス?建設中の足場 <中>ターザンロープも設置している広場
<右>古墳の多い太子町、なんとフィールド内には小さな古墳もあります。



<受講生の皆さんのふりかえり>

○ゴルフ場建設反対の詳しい経緯を知ることが出来、歴史をもっと知りたくなりました。

○里山は人の手が入らないと荒れていくということが実感出来ました。

林床植生が地中から活性化するのを目の当たりにしました。

○皆さん楽しみながら活動をしておられ印象深かった。今ここで遊びに来る子供たちが将来の里山保全・自然保護活動の担い手となってくれるのが楽しみです。

第11回10月30日(土) 富田林の自然を守る会様の受け入れにより奥の谷において「人工林間伐実習」を行いました。

1. オリエンテーション

この日は快晴に風も強くなく絶好の行事日、基地の広場で田淵代表の受け入れご挨拶からオリエンテーションを行って講座をスタートしました。



＜左＞竹林巡る　＜中＞竹林よりピークの「みはらし台」に出る、富田林市街地の景観広がる　＜右＞人工林内に行く。



○ゴルフ場や住宅開発に自然が壊されることなく守られていることにまず感謝したい。
基地までの道のりがゆるやかで、子供から高齢者までが集える。また自家発電やバイオトイレなどに感銘を受けました。

○以前の講義でいろいろな活動をされていて楽しそうだと思っていた。今日フィールド見学をして、広大な敷地、立派な基地を見て圧倒されました。ここまで整備するのに多大な努力があつて現在の楽しみを産み出されているのですね。

○竹が勢いよく繁茂している状況を実際に目で見て山林の手入れの重要性を再認識出来ました。

人工林内で樹齢30年ほどのヒノキを会のスタッフの指導を受けて講座スタッフ中心に1本間伐する。その後、会のスタッフの指導により受講生の皆さんが中心に1本間伐した。途中、倒すときにかかり木になり、安全上受講生の皆さんは作業退去し、会のスタッフにより処置をされた。その後、受講生の皆さんは間伐材の枝打ち、玉切、皮むきなどを行った。

[illegible]

＜左＞間伐作業受け口切り　＜右＞受け口が適正な角度か定規でチェックする＜左＞スタッフが受け口をナタで修正



＜左＞追い口切り＜中＞かかり木になりロープで引っ張るも倒れず　＜右＞ロープ位置変え、ウインチ利用により倒す。



＜左＞切り取った断面　＜中＞ヒノキの皮剥ぎ作業要領を聞く。＜右＞皮剥ぎ作業



＜受講生の皆さまのふりかえり＞

○初めての経験、道具を使ったり実際に体験させてもらえた貴重な時間でした。

追い口、受け口どの方向に倒すか倒れるかそして倒れなかったときは・・・本当に沢山学びました。

○これまでの実習で一番ダイナミックで楽しかったです。

かかり木になるトラブルがありましたが、その際の対応を見て学べたのでかえって良かったと思います。

○人工林であっても適切に手入れすれば低木・草木が生え生物多様性の林になるし、環境保全等という観点からも有意義であるということに改めて認識出来ました。

第12回11月7日(日)、妙見里山倶楽部様の受け入れにより高代寺山において「竹間伐実習」を行いました。

1. オリエンテーション

この日も晴れて風も強くなく行楽日より、基地で伊藤温夫会長の受け入れご挨拶と「竹の話」、井上登紀夫さんより「竹切りの基本」の講義を受けて講座をスタートしました。

写真1段目<左>基地入り口 <中>伊藤会長 <右>基地での受講風景。 2段目<左>ハチク・モウソウチク・マダケのサンプル <中>マダケは枝の中は空間 <右>基地直ぐ上に簡易トイレ

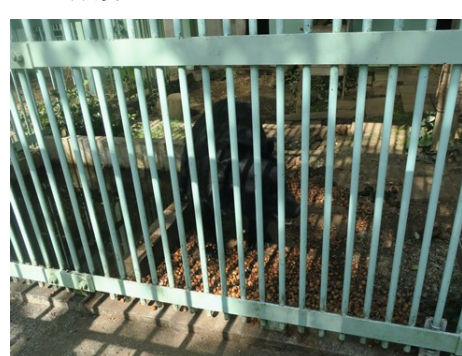


2. 高代寺山フィールド見学・妙見里山倶楽部の活動など

写真左より、基地へは妙見口駅より高代寺の参道を行く、<左>途中で棚田班の基地 <中・右>下見時10月19日に見られたフジバカマとアサキマダラ。



写真左より、<左>六地藏 <右>段々畑とイノシシ除けのシシ垣の跡 <右>高代寺に保護されているツキノワグマ



<受講生の皆さまのふりかえり>

○以前の竹林の様子が一掃され、それを何年もかけて整備したご苦労が良く分かりました。

とても居心地の良い所で守っていくことも楽しくなる素敵な場所でした。

○今はもう沢山竹を切った後で見晴らしがいいですが、最初の山の状態からここでもって来られて凄いと思います
シイタケを植えたり棚田を整えたり楽しみを作って良い活動をされていて素晴らしいです。

○棚田や竹など活動フィールドが広いと思いました。今開けた土地でも竹を伐採された後だと知り、大変なことだと思います。

3. 竹間伐

竹間伐の実習場は、1班が西側奥、2・3班は北側奥で行った。

<左>KYKを行う、決まっています！ <左・中>作業風景 <2段目>作業風景



<受講生の皆さまのふりかえり>

○前回のヒノキ間伐に比べると切りやすくて夢中になりました。

竹は人間にとってしか利用価値がないということを知って良かったです。

○木竹混合林の竹を間伐することで明るく見通しの良い林になり、適切な管理が必要だと感じました。

斜面での作業は足腰にくるので、ケガなく作業が終わり良かったです。

○次々と倒していけるのでやりがいもあり楽しい作業でした。でもこの広い範囲作業されてきた月日は凄いと思います。

その他、<左>お土産に頂いた巨大シイタケ <中・右>ご馳走になったサツマイモ、味噌汁。



フィールドで見られた生きもの、1段目<左・中>シロダモの実、花、実と花が同時期に見られるものは稀である。 <右>ムラサキシキブの実。



第13回11月21日（日）、富田林の自然を守る会炭焼班様の受け入れにより富田林・奥の谷において「竹炭焼き体験」を行いました。その後、今回の講座が最終回になることから基地にて講座の修了式を行いました。

1. オリエンテーション

この日も晴れて風も強くなく行楽日より、炭焼班の基地（枇杷庵）で柴山班長の受け入れご挨拶、米田彰一さんより「奥の谷竹炭焼き製作手順」の講義を受けて講座をスタートしました。

写真1段目<左>基地・枇杷庵 <中>柴山班長 <右>基地での受講風景・青空教室。

2段目<左>講師の米田彰一さん <中>炭焼き小屋 <右>炭焼き窯2基



2. フィールド見学・炭焼班の活動など

<左>枇杷庵の囲炉裏 <中>ハンモックで昼寝 <右>枇杷庵の上の段のミツバチ巣箱を見学。



3. 竹炭焼き体験

最初にデモ：スタッフの端さんより竹切断、竹割り、節落としの作業手順と安全ポイントをデモして頂いた。



その後、2班に分かれて作業をおこなった。

1 段目<左>作業にかかる前に皆でKYK <中>切断 80 cmに <右>竹割り 1：竹割り器で4等分する、台に竹割り器を置きその上に竹を乗せ、竹の上を掛矢で打つ。竹の先が台に届いたら竹をひっくり返す。2 段目<左>竹割り 2：竹を両手で持って台の上に落とす竹割り器が自重で落下し竹を割っていく <中>節落とし：ナタで出ている節を落とす<右>節落とし後の竹。



<装填と土かぶせ>

約 300 本の竹を加工出来たら、これを装填すると水分が多いため次回用にします。

<左>以前に加工していた竹を窯に装填します。

<中>竹の長さは窯に入れやすい最長の 80 cm、空間が出来るので小さな竹を挿入します。

<右>空間があれば酸素が入り燃焼の恐れがあるので出来るだけ空間をなくし蓋をします。



<昼食休憩>

左より、ニホンミツバチ巣箱、枇杷庵では抹茶サービスほっこりします、マツボックリなど小物も炭に。



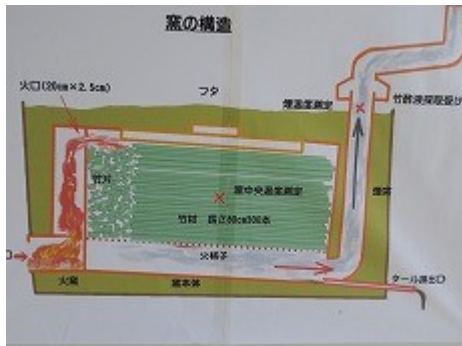
<火入れ、薪の補充、窯出し、窯の密閉>

午後より、火入れを行いウチワ・竹筒・チューブで風を送りようやく約20分後には火力が安定しました。

火起こし時には軍手では手首の火傷の恐れもあるため、革手袋が支給されて作業をします。

その後、左側の窯は前月炭焼きをしたものの取り出しです2段目<右>、3段目<左>。

取り出した炭が3段目<中>これをお土産に頂きました。右側の窯を密閉するため、濡れた新聞紙も使って焚口を閉じます3段目<右>。段取良くやって頂き、あっという間に楽しく作業を終えることが出来ました。



<受講生の皆さまのふりかえり>

○竹割りを初めて体験しました。気持ちよく割ることが出来良かったです。

手順や炭としての知識がきれいにまとまってお分かり易かったです。

○放置竹林の活用を体験することが出来、知識だけでなく技術も学べて良かったです。

活用方法があれば里山を含め、竹林も美しくなると思うので今後も考えていきたいです。
○竹を割ること、ナタを使うこと、火をつけること、全てが新鮮な体験でした。
一つ一つの作業は大変ですが、複数人で協力してやる楽しさ味わいました。
キャンプで焚火をする人の気持ちが少しわかった気がします（笑）。

<第5回新・里山講座修了式>

竹炭焼き体験終了後、富田林の自然を守る会の基地において修了式を行いました。
第5回は1月から5月までの計画でしたが7回実施後、4月よりコロナによる緊急事態宣言があり、加えて夏季を避けて（間にオンライン座学で1回実施）、6か月ほど延期し、10月に再開、残りの4回を実施、11月21日に修了式を迎える運びとなりました。受講生11名、さすがに6か月延期後の10月よりの出席率は50%程度となり、修了要件を満たされた方は5名（出席率80%以上など）でした。

金谷副会長よりご挨拶頂き、修了要件を満たされた、100%出席の野月善一さん、松澤冴子さん、80%以上出席の芋縄有磨さん、具志堅葉子さん、山本操司さんに修了証を授与されました。

その後、事務局より講座修了後の活動について説明、保全協会へ新入会者として、4名ご加入頂きました。加えて1名の方が来年度スタッフをして頂けることになりました。

写真、<左・右、修了式風景>、<中>金谷副会長のご挨拶。



受講生の皆さまから頂いた講座全般へのアンケート結果抜粋

<全般>

- 里山について知りたく、この講座を受けました。色々な団体、里山に赴きそれぞれの活動に参加することで、どのように里山を保全しているか知ることが出来ました。
- 里山などの自然保護の実際の活動、生物多様性について各種講義、実地研修を通して深く理解出来ました。皆さんがどういう活動をしているのかを具体的に知ることが出来ました。
- この講座で里山に関する知識と里山を通じて出会う人との繋がりを得たいと思い参加しました。講義では、専門的なお話もあり、まだまだ理解するには至っていませんが、その知識に触れることで里山を多視点から観察することができたり、また大阪の北から南までいろんな里山での実地体験を通して里山の魅力を感じています。

<講座内容>

- 講座内容、実習地など充実した内容でした。特に、安全に関する講座やKYKが良かったです。
- コロナ対策で延期したことは仕方がないと思います。
- 講師の方は、パワーポイントが作り込まれており、講義が丁寧で、受講しやすかったです。
- 日程変更などはやむを得ないことだと思いますし、安全を優先してスケジュールリング等して頂いたのは有難かったです。講師の皆様には丁寧に講義して頂き感謝しています。

<スタッフの対応>

- スタッフのみなさんにこやかで素敵な人ばかりで、お顔を見るとホッとする、参加したくなる理由の一つでした。大変お世話になり、ありがとうございました。
- スタッフの方、それぞれが里山を楽しんでいて、管理的でない雰囲気が良かったです。

<講座ニュース>

- 毎回、詳細なニュースを作って頂き理解が深まりましたし、感謝しています。
- 季節の話題があり楽しく拝見しました。
- 参加者の感想コーナーが面白かったです。また、植物や昆虫の豆知識が好きでした。

以上